

太宰府市短歌ポスト第百六期 入選歌

(令和二年六月十五日)

選者 大久保富士子

紅梅の香り豊かな太宰府で友と語り時の尊守を

穂積賀市 本間由香里

太宰府に友と二人で卒業の旅行に訪れ新たな道へ

堺市 塚本ミナ

ゆづりかな梅の花みて思ひ出す梅子とソウ名の祖母がソタこと

福山市 藤井温子

行列の天満宮の神前によろよろ一ツツ嫁の幸祈る

岡山市 池田朱実

曲水の庭の白梅古ぶともソト一エの香を今に伝える

福岡市 猿田史子

父の町巡る旅にて立ち寄つた此処にほつりと咲く梅の花

穂苅市 上川未波

太宰府の務のかおりに洗ひぬぐ旅行かばんを背負ふおす帰路

町田市 草薙由莉

ふるさとを旅立つ友と来る遠具隣に座るの今度はソツカ

福岡市 永野浩

太宰府に東風はさやかに吹かずとも道直思ひて飛梅が咲く

札幌市 江部 陽

何処かと令和に過つし人々は宴の里に梅の香を訪ね

神崎市 陣内敏夫

中韓の言葉の消えし参道に霧雨煙り梅も香らず

福岡市 斎藤真左樹

梅が香を浴びて祈りし学の道紫の風に思ひ馳せしむ

東京都 一之瀬奇跡

久びさに観世音寺の道赤く萩の繁りて紅くばす

糸島市 加藤美美子

悲しみは叙述になつた思ひ出を独り占めして飛梅は咲く

穂苅市 溝口裕子

とび梅のほろびはじめまだ寒く子のあしどりは春待ちのびる

福岡市 中山なつき